

## ながおかワーク&ライフセミナー第3講座開催報告

### よるしよく 「夜職女性の現場から考える女性の貧困とは…」

2月7日(土)、長岡市立劇場を会場に「ながおかワーク&ライフセミナー第3講座」を開催し、43名の市民の皆さんにご参加いただきました。今回は「夜職女性の現場から考える女性の貧困とは…」をテーマに、NPO 法人「風テラス」理事長の徳田玲亜氏を講師に迎え、女性の貧困や社会的孤立の問題について学び、考える機会となりました。

開会にあたり、主催者を代表して長岡地区労福協の矢島会長があいさつし、「女性の貧困や孤立の問題は、社会全体で向き合うべき大きな課題であり、今日の講演が地域で考えるきっかけになってほしい」と述べました。続いて、実施団体であるNPO 法人女のスペース・ながおかの荻野代表から開催趣旨の説明がありました。

講演では、徳田氏から、風俗業界で働く女性たちの実態と、支援活動の現場についてお話いただきました。徳田氏が理事長を務めるNPO 法人「風テラス」は、2015年から東京・鶯谷の性風俗店で無料相談会を行い、生活困窮や借金問題、店舗とのトラブル、メンタルヘルスなど、さまざまな悩みを抱える女性たちの相談に応じています。相談は全国から寄せられており、新潟県からも40人以上の相談があるとのことでした。

講演では、風俗業界で働く女性たちの背景についても触れられました。夜の仕事に入るきっかけは人それぞれですが、正規雇用からの排除、住まいの問題、障がいや家庭環境など、さまざまな社会的困難を抱え、他に選択肢がない状況の中で働かざるを得ないケースも少なくないといいます。また、風俗業界では多くが個人事業主として働く形となるため、社会保障制度の利用が難しい場合も多く、困ったことがあっても「風俗で働いている」という後ろめたさから相談につながりにくく、問題が深刻化してしまうこともあると指摘されました。



徳田氏は、こうした状況を「個人の問題ではなく社会の課題」として捉えることが大切だと話します。風俗で働くことの是非を論じるのではなく、その背景にある貧困や孤立、社会的排除といった問題に目を向けることが必要であり、偏見を持たずに理解を深めることが支援の第一歩になるということでした。

また、当事者が安心して「風俗で働いています」と言える環境づくりが重要であり、孤立を防ぐための居場所づくりや、支援機関へのつなぎ、SNS や漫画などを活用した情報発信など、さまざまな方法で支援の輪を広げていく取り組みが紹介されました。

今回のセミナーは、普段なかなか知る機会の少ない現場の実情を学ぶとともに、女性の貧困や孤立を社会全体の課題として考える貴重な機会となりました。今後も地域の中でこうした問題への理解を深め、誰もが安心して暮らせる社会づくりについて考えていくことが大切です。